

祈りによって祈る

私たちの生活に、「祈り」によって神の奇跡が作用し始めるためには、とにかく、まず祈らなければなりません。しかし、祈る時間を決めて祈り始めるのですが、案外、挫折することが多いのです。

自分の祈りに、軽率さや一方的な身勝手さを感じ、「こんな祈りでいいのだろうか」と祈ることに罪悪感が湧いてくるからです。罪悪感は気弱さを引き起こし、気弱さは祈りを止めることにつながります。祈ることに、後ろめたさを感じるようになると、私たちはすぐに祈らなくなります。

この事は、長年クリスチャンたちの課題でした。そしてある順番を覚えながら祈ると、祈れるようになるという、良い方法を見つけたのです。

頭文字で「A C T S」といいますが、**1、崇めること** (Adoration), **2、告白** (Confession), **3、感謝** (Thanksgiving), **4、嘆願** (Supplication)。殆どのクリスチャンたちはこの順番を知っていると思います。それでも学びながら試してみると、必ず良い結果を生みます。

聖書の学び

1、崇めること(Adoration) —聖なる空間に入ること—

(詩篇148:5、139:1~2、145:18~19)

1、神様を崇めることは、神様の本質や性格を私たちに思い出させます。

- ①創造者なる神様。
- ②全知全能の神様。
- ③偏在される神様

2、神様を崇めることは、祈っている人を清めることになります。

(詩篇46:10)

- ①ほめたたえると、心はどうなるか？
- ②祈りの課題の変化。
- ③神様の御声を聞く備え。

3、神様をどのように崇めたらよいでしょうか。(Iヨハネ3:1)

- ①十字架により、祈りを聞いてくださる。
- ②祈りがきかれた体験を感謝する。
- ③神様を讃える詩篇や聖句を読む。

2、告白 (Confession) —自分の過ちを具体的に言い表すこと—

1、最後の晩餐の直前、主イエス様は弟子たちの足を洗われました。 それは、前身のきよめではなく、毎日つく汚れを洗うことでした。 (ヨハネ13:4~10)

- ①罪の赦しは、口で告白をすることで実行される。(Iヨハネ1:9)
(気がついている罪があるまま、神様の前に出ても、祈りはきかれない)

- ②罪をぼやかし、薄めない。

- ・ある人は、友人と話しているとき、駐車場600台位しか停まっていなかったのに、900台だとその混雑ぶりを誇張して話しました。彼は祈りの中で、「私は嘘つきです」「主よ、どうか私が嘘をついてしまったことをお赦し下さい」と祈りました。

2、罪人である自分を自覚し、小さな罪もいい加減にしないで、心の中まで見ておられる神様を意識するようになると変わってきます。

- ①自分の良心がきよめられる
- ②神様に赦されている安堵感。